

令和6年度私立学校初任者研修中京地区研修会実施概要
 ～私立学校教員としての心構えの体得と実践的指導力の育成～

実 施：愛知県私学協会

会 期：令和6年8月20日（火）～8月22日（木）（宿泊研修）

会 場：名古屋ガーデンパレス（愛知県名古屋市）

参加人員：140名

参加対象者：原則として、愛知県・岐阜県・三重県の私立中学校・高等学校の新規採用教員とする。ただし、この初任者研修の未履修者で教職経験7年未満の者まで対象とする。（非常勤講師を含む）

日程細目

第1日目 8月20日（火）

12:30	開 会 式 開会のことば 主催者挨拶 来賓紹介 〔代表挨拶〕 指導員の紹介及び日程説明	愛知県私学協会 教員研修委員会委員長 石田 潤 一般財団法人日本私学教育研究所 理事 中川 武夫 愛知県私学協会 会長 榑 直樹 岐阜県私立中学高等学校協会 副会長 古田 健二 三重県私学協会 会長 梅村 光久 愛知県私学協会 教員研修委員会委員 祖父江 泰浩
13:00	研修1－講話 演 題：「私学の現状と今後の課題」	
14:00	講 師：中川 武夫 一般財団法人日本私学教育研究所 理事 休 憩	
14:10	研修2－講演 演 題：「学校事故対応並びにいじめ対応等について」	
16:15	講 師：伊藤 正朗 南新町法律事務所 弁護士	
16:25	指示連絡	愛知県私学協会 教員研修委員会委員 祖父江 泰浩

第2日目 8月21日（水）

9:00	日程説明等
9:20	休憩・移動
9:30	研修3－グループワーク テーマ 体験学習と実習
12:00	講 師：楠本 和彦 南山大学 人文学部心理人間学科 教授 昼 食
13:00	研修4－班別研修 テーマ：各班で設定 「人間力」、「モチベーションアップ」、「生徒指導・校則」、「ICT活用とマンパワー」、「ICT教育」、「生活指導」、「教員と生徒との関わり」、「クラスに馴染めない生徒へのアプローチ」、「スマホの扱い」、「働き方改革」等

17:00	<p>指 導： 今井 慎史 岐阜第一高等学校 教頭 高橋 周作 麗澤瑞浪中学校・高等学校 教頭 寺本 豊 津田学園中学校 校長 池田 覚 伊勢学園高等学校 校長 高木 義成 四日市メリノール学院中学校・高等学校 校長 榊 直樹 愛知県私学協会 会長 古田 健二 岐阜県私立中学高等学校協会 副会長 梅村 光久 三重県私学協会 会長 石田 潤 豊川高等学校 校長 若松 幸雅 桜花学園高等学校 校長 石丸 正樹 愛知淑徳中学校・高等学校 高校副校長 尼子 理志 享栄高等学校 校長 伊藤 頼雪 中京大学附属中京高等学校 副校長 西形 久司 東海中学校・高等学校 副校長 若山 和彦 名古屋経済大学市邨中学校・高等学校 校長 須田 文清 誠信高等学校 校長 山口 喜久枝 日本福祉大学付属高等学校 校長 祖父江 泰浩 誉高等学校 教頭 加藤 聡 豊田大谷高等学校 校長 伊藤 浩光 桜丘中学校・高等学校 教頭</p>
-------	---

第3日目 8月22日(水)

9:20	日程説明等
9:30	班別研修のまとめ
10:00	班別研修結果発表
12:00	指導講評
12:15	指 導： 石田 潤 愛知県私学協会 教員研修委員会委員長
	昼 食
13:00	研修5－講演 演 題： 「スマートデバイス・ネット利用を巡る最新事情 ～教員が知っておくべきこと～」
15:00	講 師： 今井 昌彦 浜松学院大学 学長
	休 憩
15:15	閉会式 挨拶 愛知県私学協会 教員研修委員会委員長 石田 潤 修了証授与 感想文記入
16:00	

概要 ※講師、担当者の所属・職名は日程細目参照。

【開会式】

主催者を代表して中川理事が、縁あって私立学校に奉職された初任教員への歓迎の挨拶を行った。梅村会長は、建学の精神は常に立ち戻ることのできる私立学校の軸であり、初任教員には最新情報をアップデートし教科力や人間力をつけ、学校代表の自覚と経営的視点を持ち進んでほしいと挨拶した。

【主催者講話（中川 武夫 氏）】「私学の現状と今後の課題」

私学は生成 AI 等の課題を見極めて指導に活用し校内から県内・地区に情報共有を広げていく。教員の意識改革が重要で、教員は生徒の学びの芽を育て伸ばすファシリテーターとしてアウトプット型授業への転換を促し最新の情報・知識を受け止めるアンテナを磨き時間の効率化を進めてほしい。私学の原点である建学の精神、校訓は普段使いし学校生活にちりばめてこそ生きる。創設者の思いを形骸化せず、若い先生方には建学の精神を自ら解釈し思いを持って分かり易い日常の言葉で生徒や保護者に伝え、浸透させていくよう努めてほしい。

【講演（伊藤 正朗 氏）】「学校にかかわる法律問題について」

グループワークを交えいじめの問題を中心に法的思考と学校に法的責任が認められる事例を紹介する。いじめの未然防止・対応の義務を怠ると重大事態のリスクが高まる。問題が生じた時の為に法的思考の基本を学ぶことは重要で、いじめ防止対策推進法において当人が心身の苦痛を感じたらいじめとする主観的で広義のいじめの定義を押さえ、学校がいじめを早期に認知し一致団結して支援と指導に当たられたい。私学には積極的コンプライアンス＝建学の精神・理念・教育の本質を落とし込みプロとして生徒の個性を尊重した教育を望む。

【グループワーク（楠本 和彦 氏）】<体験学習と実習>

ラボラトリー方式の体験学習に係る小講義ではプログラムのねらい、人間関係から学ぶ体験学習の循環過程、コンテンツとプロセスについて説明し、グループワーク実習（なぞの宝島）では情報カードと地図を使い協力してミッションを果たすプロセス（チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション、個人の動きや気持ちなどが変化していく）を体験後、実習を個人でふりかえり、気づきを仲間と伝え合い共に考え、全体でわかちあうことで体験や学びが今後につながる。体験学習のフィードバックでジョハリの窓の開放領域が広がり自己・他者・相互理解が深まる。グループワークを現場で活かす場面や留意点ではグルーピング、プログラム内容等は生徒の発達段階や時期次第で工夫し、生徒が主体的に参加・学習できる状況を準備したい。



【講演（今井 昌彦 氏）】「スマートデバイス・ネット利用を巡る最新事情 ～教員が知っておくべきこと～」
デジタルコンテンツの最新情報とリスクについて、Google Forms の QR コードとスマホによる質問・回答のフィードバック、動画生成 AI を使った動画作成等リアルタイムで紹介する。① SNS 依存に陥るのは最新情報を求める人間の本能である。② 身体への影響として長時間利用によるスマホ急性内斜視・イヤホン難聴、OL ゲームによる睡眠障害など健康被害のリスク回避に使用時間等家族のルール決めが有効である。③ デジタルタトゥー、個人情報流出、権利侵害等による罰則対象等 SNS はリスクが高く軽率なネット発信は安易に手を出さないことだ。④ 生成 AI における創発（能力が突然飛躍的に向上し、テクノロジーが一気に進展する）が起きている。キャラ加工のできる画像生成 AI「Midjourney」「Stable Diffusion」はコピー・拡散防止のため顔や指紋出し厳禁だ。動画生成 AI「NoLang」はテキストから約 30 秒～3 分のショート動画を最短 3 秒で生成し、Web サイト要約動画も作れるので授業の導入で使い易い。10 頁の記事を瞬時に動画生成する AI「FLUX.1」も出現した。スライド自動作成 AI「イルシル」は業務効率化が期待される。⑤ SNS 驚愕の実態として学校内盗撮などがある。⑥ ネット利用における教員コンプライアンス(法令遵守)として ICT コンテンツにおける個人情報保護、SNS ハラスメント防止、アバター利用がある。近い将来、要点を伝えるだけで AI が文章を書き、人間が文章を書かなくなる時代が来ると言われる。自分は何をやりたいのかしっかりと意思を持つことが肝要である。

参加者からは時代の趨勢である生成 AI は教育に活用しない手はないなど積極的な意見が多く寄せられた。

【班別研修】 / 【班別研修結果発表】 / 【閉会式】

班別研修では 12 班にわかれ、指導教員がファシリテーターとなり、参加者は司会者、記録、結果発表者を決め、テーマ設定の為に討議からスタートした。研修結果発表に向けてテーマに関する意見が交わされ、参加者は課題や悩み、体験事例を共有、研修成果のまとめ作業に取り組んだ。研修結果発表では、各班の設定テーマ「人間力」「モチベーションアップ」「生徒指導・校則」「ICT 活用とマンパワー」「ICT 教育」「生活指導」「教員と生徒との関わり」「クラスに馴染めない生徒へのアプローチ」「スマホの扱い」「働き方改革」等について多くの班がシナリオによるプレゼン形式で、参加者にディスカッションを促し、テーマに係る提案を披露する班もあった。

石田教員研修委員長は発表の指導講評及び閉会式での研修会総括を行い、今年度の参加者は開始時間よりも迅速に集合し一人の遅刻者もなかったことは素晴らしい。班別結果発表も例年になく幅広いテーマを取り上げ、内容もしっかりしたものであった。先生方には、この研修で共感したことやヒントを持ち帰って、授業や生徒指導等に活かしてほしい。生徒の小さなサインを見逃さず真剣に取り組めば必ず成果につながると締めくくった。

最後に参加者に修了証が授与され、当研修会は成功裡に幕を閉じた。

参加者アンケートより

研修1 講話「私学の現状と今後の課題」(中川先生)

- 印象的だったのは、教員の意識改革の話の中で出てきた「学びの芽を育てる」という言葉だ。限られた時間の中で効率よく知識を与えなければならない中、少しでもやる気のない生徒の学びの芽を育てられるように時間の節約術の重要性を感じた。
- “公立学校は水道水、私立学校は天然水”という言葉が印象に残った。建学の精神を大切にしながら、個々に合う様々な工夫が広がる学校教育ができるよう励みたい。
- 世の中や各学校の不易と流行を見極めて、変化にも柔軟に対応する大切さを学んだ。生徒や自分自身のために、今何が必要で、何が不必要なのかを考え、若い今のうちから様々なことに挑戦する姿勢が重要だ。

研修2 講演「学校事故対応並びにいじめ対応等について」(伊藤先生)

- 具体的な事例を通して、学校としての法的責任追求の考え方が、教員の意識として必要な措置について知るきっかけとなった。これまでの認識と法律上の解釈との間にあったギャップを知り、どういった対応をするべきなのかを考え、指導上のヒントとなった。
- 具体的な数字や事例を用いて説明して下さり、法律を身近なものとして考える必要性を感じることができた。いじめをさせない、という曖昧な認識ではなく、法律やガイドラインに則って対応を組み立てていくこと、いじめの定義に向き合っていくことを学んだ。
- 学校内におけるコンプライアンスとは、校則を守ることだと誤解していた。積極的な意味として、建学の精神を実現している生徒こそが、コンプライアンスを遵守している生徒だと学び得た。この学びを日々の生徒指導に取り入れていく。
- いじめの定義について教員目線ではなく法律の専門家から話を聞くことができ、普段とは違った目線から考えることができ、新鮮に感じた。生徒に対してどのように対処していくべきかを深く考えることができた。

研修3 グループワーク「体験学習と実習」(楠本先生)

- グループワークは学校現場であふれている、当たり前ものとなっているだけに、その裏に隠れる理論や振り返りの大切さなどを知ることができて良かった。「ジョハリの窓」については生徒の人間関係の醸成を見守る上で、非常に参考になる。
- 体験学習を通して、相互理解の領域を広げる練習ができることを学んだ。全ての生徒がリーダーシップをとれる可能性があり、「体験学習+振り返り+分かち合い」を通して、クラスの中にまとまりが生まれてくる(コミュニケーションの向上)ののだと感じた。
- シェアリーダーシップという考え方がとても印象に残った。これまでリーダーになったら全てのことを仕切らなければという思いがあったのだが、リーダーシップを分け合ってよいと思うと少し気持ちが楽になった。

研修5 講演「スマートデバイス・ネット利用を巡る最新事情～教員が知っておくべきこと～」(今井先生)

- 衝撃的だった。デジタルに抵抗があったのだが、話を聴いている内に、あっという間に「Chat GPT を活用してみたいな」「デジタルは上手く使えるかもしれない」とまで思っている自分がいた。今井先生の丁寧な準備・発表・日々の研究により、感動的にそして楽しい講演だった。
- 正直な所、ここまで技術の進歩があったとはおもってもみなかったもので、驚くばかりだった。普段目先のことに追われ、最新の知識・知見の取り組みが遅れていることを実感した。使い方を教えていただいた生成 AI を試してみようと思う。
- AI の有用性と危険性、今の日本のインターネット普及の課題など、現在の日本での課題や授業へのAI の取り入れ方など、有意義な事を多く学ぶことができた。